

オランダ産隔離検疫免除チューリップ球根輸入される

チューリップなどの輸入球根類については、港の検査で発見困難なウイルス病などを検査するため、輸入検査終了後、一作期間隔離栽培することが義務付けられている。この隔離検疫制度に代るチューリップ球根の新しい検査システムがオランダから提案され、過去3年間にわたって、技術的観点から種々の協議・検討が行われた。その結果、今年度から①オランダ側においてエライザ検定、ガラス室検査及び栽培地検査が実施され、かつ、②わが国の植物防疫官による現地確認検査を受け合格したものであること、など一定の検疫条件を満たす球根については、隔離検疫を免除することになった。

隔離免除の条件を備えたチューリップ球根は、本年はプロミネンス、モンテカルロ、アンジェリ

ケなど31品種で、8月上旬成田空港に輸入されたのを皮切りに、その後、航空機や海上コンテナで輸入されている。これらの球根は従来の大型容器に加えて、小売用商品として小型容器に納められた形で輸入される事例もあり、輸入形態にも変化が見られる。



横浜港に輸入された隔離検疫免除球根

◆海外のニュース◆

リンゴ疫病の病原菌の種類と生物的防除

わが国のリンゴの疫病には、果実が腐敗する果実疫病と台木の地際部が褐変腐敗するクラウンロットとがあり、前者は *Phytophthora cactorum*、後者は *P. cambivora* によっておこることが知られている。しかし、諸外国においてはクラウンロットをおこす病原菌として、数種類の菌がリストアップされている。最近、アメリカにおけるクラウンロットの疫学的調査及びカナダにおける本病の生物的防除に関し、興味ある報告がなされたので紹介する。

アリゾナ大学の Matheron らは同州のリンゴ園のり病樹と根圏土壌から5種類の病原菌; *P. cactorum*、*P. cambivora*、*P. drechsleri*、*P. parasitica*、*Phytophthora* sp. を分離した。また、コーネル大学の Jeffers らはニューヨーク州のり病樹から3種類の病原菌; *P. megasperma*、*P. cactorum*、*Phythium irregulare* を分離している。両州で分離されたこれらの病原菌はわが国にも分布しており、今後わが国でも *P. cambivora* 以外の病原菌によるクラウン

ロットの発生が懸念される。

一方、カナダの Utkhede は、上述の病原菌の中では最も注意を要する *P. cactorum* に強い抗菌作用を示す細菌、*Enterobacter aerogenes* を発見し、リンゴ疫病の生物的防除に成功している。抵抗性台木の利用と薬剤処理が本病に対する一般的防除法であるが、彼はメタラキシル剤と本細菌を併用することによって高い防除効果を得ている。また、この防除法を用いれば、薬剤の使用量は少なくなり薬剤耐性菌の出現をおさえる効果も期待されると述べている。

1) Plant Disease 72: 481-484 (1988)

2) 5th ICPP Abstracts of papers 184 (1988) など

発行所	横浜植物防疫所 〒231 横浜市中区北仲通5-57(横浜農林水産合同庁舎) ☎045(211)2299
発行人	小畑 琢 志
編集責任者	長尾 記 明
印刷所	内村印刷株式会社 〒231 横浜市中区末吉町1-12 ☎045(261)7961